

## 第5期夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議 要旨

会議名	夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議(第15回)
日時	令和7年9月8日(月)18時30分~20時30分
出席	中嶋弥生、大橋暉弘、小畠くるみ、田野倉宏美、山口聰、永田ゆかり、樋口睦子、秋山俊、平野静香、景山千鶴子、小松佳世子、水城優子、山中ゆう子、大口泰朗、坂下香澄、鈴賢太郎、飯野心咲、松村咲(委員名簿記載順・敬称略) [事務局] 矢ノロ子ども家庭部長、平川子ども政策課長、井田子ども政策係長、高野 [株式会社地域計画連合]相羽、青野
欠席	金子恵、土方崇、米原立将、佐藤米子、北島宏晃、伊東祐也、安部希美、末平乙綺、佐藤蓮太朗(委員名簿記載順・敬称略)
配布資料	資料1 第5次夢育て・たちかわ子ども21プラン及び小学生向け・中高生向け概要版について 資料2 当日のプログラム 資料3 子どもの意見表明・意見反映の機会の創出について ※グループワーク資料は、机上配布
会議場所	立川市役所101会議室
<b>1. 第5次夢育て・たちかわ子ども21プラン及び小学生向け・中高生向け概要版について</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局より資料1に基づき、プラン本体を図書室の資料として小中学校へ配架依頼すること、小学生向け・中高生向け概要版が完成したこと、小学5年生全員に小学生向け、中学2年生全員に中高生向けを学校経由で配布すること、PDFデータを学習用タブレットにタブ表示し、市立の全小中学生が閲覧できるようにすること、市内の中等教育学校や高等学校、図書館、児童館などに配布することなどを説明。</li> </ul>	
<b>2. こどもとおとなのはなしin市議会議場について</b>	
(1) 事務局より、資料2に基づき今年度提案のあった内容と、昨年度提案の報告内容について説明。	
(2) こどもとおとなのはなしin市議会議場に参加した委員からの主な感想等は以下の通り。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>一番印象的だったのは、今回、子ども委員が聞き手として参加していたということ。今まででは子どもが提案する側、大人が審査する側と分かれていた。今回、審査する聞き手側に子ども委員がいて、提案する側も審査する側も年齢の差がないフラットな目線だった。立川での子どもの意見表明等の部分で、大きく一步進んだ瞬間だと感じた。今後、いろいろな分野の意見表明の場面で、子どもが表明して大人が判断するということではなく、子ども同士・若者同士で一緒に作っていくことが重要な視点だと思った。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>提案内容は事前にはわからないまま、当日質問してわかることがある中で、質問を相手にわかるように言語化して伝えることが本当に難しかった。昨日終わった後に審査員の中で、広報の仕方が課題ではないかという話し合いがあった。この活動をもっと広めるために、広報の仕方などについて考えていけたらと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>貴重な素敵な機会に参加させていただいた。子ども達が自分のやりたい施策を発表し、実際にお金がつくということは、子どもの参加する権利を保障する意味で非常に大事な機会なので、予算がつく限り開催回数が増やせればと思う。一方で、タイトルがこどもとおとなのはなしinとなっているが、話</li> </ul>	

し合いではなく、どちらかというとコンペやプレゼン、コンクールみたいなものだと感じた。また、子どもが提案を考える際に、大人がアドバイスしたり選択肢を与えたりすることは悪いとは思わないが、大人が子どもを利用して、子どもの口で言わせてお金を獲得する場面になりかねないところもあるため、今後も継続的に周りの大人が監視の目を向けないといけないと思った。場合によっては子どもの口を利用するものになりかねない危険があるということを、肝に銘じておかないといけないと思う。

・最初からある程度の資料もできていたが、作戦会議では「これはどうかな」というところを皆で考えながら準備していた。ペンキや絵の具がどのくらい必要で何㎡描けるのかなども、作戦会議でも「考える必要があるね」と話し合ったので、当日には結構まとまっていて、審査員の質問に困るようなこともあまりなく、しっかり考えてくれていた。当日の傍聴者が少ないので、もったいない。広報の工夫が必要。また、昨年の報告で、雨のため実施できなかったグループがあったが、そこまで経験できたということがとても良かったと話していく、ひとり一人の成長につながっていたところが感動的だった。

・当日の発表までに子ども政策課等がサポートし、作戦会議で子ども達と考えていく中で出来上がった提案が、当日あの場で出てくる。もっと審査員が突っ込んだ質疑をし、子ども達が頭を抱えて考えるような場面があっても良い。また報告発表者の中に、立川市民ではないが、はなしやすい企画を通して立川がとても好きになったという方がいて、聞いていてとても嬉しくなった。雨で実施できなかった報告も、それを残念に思うだけでなく、その中でもこんなことを学んだ、この経験をこれから的人生の中で生かしていく、と堂々と発言していたことが胸に響いた。一年経って子どもたちの成長ぶりを感じられる素晴らしい企画なので、ぜひ来年は提案の段階から委員の皆さんには聞いていただきたい。

### 3. 子どもの意見表明・意見反映の機会の創出について

(1) 事務局より、資料3に基づき、子どもの意見表明・意見反映の機会の創出のこれまでの経緯とグループワークの目的、実際にやってほしい作業について説明があった。

(2) 3班に分かれ、グループワーク。委員の主な意見交換結果は以下のとおり。

#### 【グループA】

・まず、「こんな時に子どもだったらどう思うかを聞いてみたい」というテーマについて話し合った。学校のことについていくつか出てきて、「楽しい学校にするには」、「運動会」、「合唱コンクール」など行事のところで、子どもの意見が聽けると良いという意見があった。少し違う視点では、「選挙の投票率を上げるために」ということで、18歳になる前の段階で子どもたちの意見を聞くと、投票率向上につながるのではないかという意見が出た。また、「戦争が日本で起きたしたら」とか、「起こらないためには」という意見も出た。

次に「子どもに意見を聞くと言われたらどう思うか」というところでは、やはり色々な意味できちんと聞いてあげることはすごく難しい、という意見や、「聞く」というスキルが大事、という意見がでた。また意見を聴取したところで、子どもが大人の顔色を見ていることもあり、周りの人たちとの関係で素直な話が聽けるのか、という意見もあった。子ども委員の言葉で大人がハッと気付いたのは、「最後までまづきちんと話を聞いてほしい」ということ。つい子どもが話している途中で突っ込んでしまうことがあり、最後まできちんと聴いてあげられないということがあるので、子ども委員の言うとおりだなと感じた。ひとまず最後まで子どもの考えを聴くということには、やはりスキルが必要。また、環境などが原因で本当に素直な意見が言えない子どもたち、いろいろな意味であがってこない声をどう聴きっていくのかということが、一番深いテーマだという話もあった。

意見聴取のテーマとしては、「公園の作り方」や「権利条例づくりに向けて」、「校則について」、

「学校ってどんな場所?」など。また、「勇気をくれた言葉」や「希望をくれた言葉」、「どんな言葉を大人から言われるか」、「周りの子ども同士では言葉についてどんな意見があるのか」などを聞いてみるのも、テーマの一つとして良いという意見があがった。また「いじめ」についても、具体的なテーマとして聴けたら良いという意見が出た。

子ども委員からは、自ら何かを伝えようとしている時や自らアクションを起こしている時に話を聴いてほしい、という意見があった。

### 【グループC】

・どんな施策で、どうやって子どもたちの意見を聴いて反映していくのか、を考える時に必要なこととして、最初に「誰が」「誰に」「何を」「どうやって聴くのか」ということをグループで考えてみた。

「誰が」のところでは、推進会議の委員、学生がファシリをする、子ども委員から質問をするような同じ世代でピアアドボカシーをしていくなど。また、親でもなく先生でもない信頼できる第三者がいて、家や学校でのモヤモヤを聴いてもらえるのも良い。これはまさに「子どもの権利救済機関」という施策につながっていくのではないか。

「誰に」のところでは、不登校の子どもやヤングケアラー、子どもの中でも少数の子達の話も聴きたいという意見があった。その他、遊んでいる全ての人に話を聴くという意見もあり、大人・子どもと対象を分けず皆に聴くことで、子どもだけでなく大人も居心地のいい場所になるのが良いのではないかという意見があった。

「何を」のところでは、「家や学校でのモヤモヤ」や「行きたくなる図書館」、「どんな授業が良いか」、「家や学校以外の居場所」、「居場所づくりとして、どんな図書館があると良いか」という意見があった。また、不登校の子や学校での居心地が悪いと感じる子に対し、「どんな校則が良いか」や「魅力的な学校は何か」なども聴いてみたり、「どうすれば学校に行きたくなるか」を聴いてみたりしても良い。

最後に「どうやって」について。どう聴くかの方法は難しいところで、アンケートは既に実施しているが、アンケートの取り方も色々ある。また、大人と子どもが対等な立場で話し合いができる会議、子どもだけの会議なども組み合わせていくことが必要。このテーマならば子ども会議の方が話しやすい、このテーマだと子ども会議では難しい、というのもあると思う。

このように施策を進める時に、子どもが影響を受けるときには、子どもの意見をどう聴くのか、誰にどうやって聴くのか、ということを一つずつ考えていくことをお勧めしたい。

### 【グループD】

・どんなテーマについて意見聴取したいかをメインで話し合った。子ども委員から、テーマは子どもにとって考えやすいものと考えにくいものがあり、学校や教育関連のものだと子どもの身近な話題なので考えやすい、という意見があった。また子ども自身の感覚みたいな部分で、例えば「親が家にいない時どう思うか」、「先生のどんなところが好きか」、「みんな違ってみんな良いとよく言われるが、本当はどう思っているか」など。他にも子どもの周りのこと、「居心地の良い空間はどんなところか」、「どんなところだと行ってみようと思うか」などを聴いてみたいという話が出た。他に、地域に関わるところで、「学校で立川の野菜をたくさん食べる工夫はどんなことがあるか」、「祭りでまちが活性化するために、子どもたちができることってどんなことか」を子ども達に聴いてみる、という意見もあった。

また、このグループでは公園でボールを使うことの話題が一番盛り上がった。ボールを使える広場が欲しいという若者の希望が多く、実際に学校でもこういう声はよく聞くが、周りの大人はそういう声を受けても「ルールだから」と言うしかない。子どもが意見を言って、それがどうつながっていくのかと

いう大人側の体制が重要。意見を聴いた大人側が何も対応できないと、逆に意見聴取したことがマイナスになってしまうこともあるので、聞き手側の体制はとても重要という話になった。

#### 4. その他

出席委員からひとこと感想を発表

- ・各委員より、第5期の任期を終えた感想と、第6期の委員に就任した方はその旨を補足して発表。

##### (1) 委員からの報告

- ・チャイルドラインたちかわから、子どもの電話の受け手のボランティアについて報告。

##### (2) 事務局からの連絡

- ・11月3日に第45回立川市中学生の主張大会開催。

- ・第6期の第1回推進会議は、11月6日（木）。

以上